

# 福岡工業大学 学術機関リポジトリ

## 北京市中心市内の小規模飲食店の動向

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 福岡工業大学 公開日: 2020-12-15 キーワード: the center of the city, small-sized restaurant, city maintenance, traditional brick housings 作成者: 保坂, 昌克, 服部, 毅範 メールアドレス: 所属:
URL	<a href="http://hdl.handle.net/11478/00001577">http://hdl.handle.net/11478/00001577</a>

# 北京市中心市内の小規模飲食店の動向

保 坂 昌 克 (システムマネジメント学科)  
服 部 毅 範 (機能材料工学科)

## The Trend of Small-Sized Restaurants in the Center of the City of Beijing

Masakatsu HOSAKA (Department of System Management)

Takenori HATTORI (Department of Functional Materials Engineering)

### Abstract

Beijing in China is now proceeding with city maintenance at a high pace for Olympic Game in 2008. As a result, the streets with small-sized restaurants and traditional brick housings have disappeared. In the investigation in March 2003, 80.5% of 200 small-sized restaurants were in business for less than 3 years. Then, when the investigation was made again in August 2004, 110 out of 200 restaurants had disappeared. In the circumference of an university, road maintenance is proceeding, and many restaurants are going out of business. There are some parts where all restaurants on a street have went out of business. However, Rokudouguti is an unique case that the buildings remained but the names of the restaurants changed. It is assumed that this is related to the shortness of time they have been in business as we learn in the last investigation. In the tourist resorts, a high percentage of the restaurants are still in business because the city maintenance has been proceeding for some time. There is no sign that a replacement land will be prepared for the restaurants who had to close their because of the city maintenance. This must be making the lives difficult for the restaurant owners and their families. It is necessary to pay attention to the city maintenance in future.

Keywords: *the center of the city, small-sized restaurant, city maintenance, traditional brick housings*

### 1. はじめに

中国の北京市は、2008年のオリンピックを開催するために急ピッチで準備を行っている。その中でも、都市の整備は驚くほどのものである。道路沿いにひしめき合う旧来の商店街を一掃して道路の拡張および歩道の設置、さらにはグリーンベルトを設ける等が行わ

れる。また、伝統的な煉瓦の住宅街は、ブロック単位で取り払われ、高層の住宅や商業ビルに姿を変えている。一方で、庶民の生活の場である小規模飲食店等は、主要道路沿いから姿を消している。これらに替わって規模を拡大した店舗が軒を連ねることになる。これらに関連して、立ち退きに関わる問題も発生していると報道されている。

前回小規模飲食店について調査を行った際に、開業からあまり時間が経過していない事例が多く見受けられた。これは、一般的には考えがたい事象であり、深

平成16年10月30日受付

く印象に残った。また、余りにも急激な都市整備が行われており、小規模飲食店の経営にも大きな影響を与えているものと考えられる。よって、調査対象の小規模飲食店が1年余の間にどれくらい減少しているかを調査し、その原因の一端を明らかにすることを試みた。

## 2. 調査方法とその結果

### 2・1 調査方法

- (1) 調査地区：中国北京市中心市内
- (2) 調査対象：2003年2月に調査した小規模飲食200店
- (3) 調査時期：2004年8月
- (4) 調査方法：目視による有無の確認、一部聴き取り

### 2・2 調査地域の区分

調査地域は、観光地域、商業地域、学園地域に区分した。しかし、この区分は、行政側によって設けられた区分とは関係なく、調査対象地域の周辺をも考慮し設けたものである。典型的な地域としては、学園地域の中関村があげられる。ここは、中国のシリコンバレーと呼ばれるところであり、拡張された道路沿いに大規模商業ビルが林立し、その中に多数の小規模店が入居している。その周辺自体は、明らかに商業地域と見ることが出来る。ただ、それらが大学等に囲まれた所にあるために、学園地域に含めている。調査地域についても、中心市内を細分化して地域の区分を行ったものではなく、大きなマス目に基づいている。

その意味では、地域の取り上げ方として他の望ましい方法の存在が十分考えられる。

#### (1) 観光地域

ここでは、故宮の周辺、すなわち天安門広場南側・故宮東側・王府井・雍和宮付近を観光地域とした。故宮の東側にある道路を華僑ビルから南へ700m程行くと北京飯店がある。これは王府井通りと呼ばれ、全市の売上げの10%を占める北京第一の商店街である。ここには、全国最大の北京市工芸美術服務部、全国で十指に入る北京市百貨大樓、北京四大マーケットの一つ東風市場、老舗の店舗が立ち並ぶ一方で、世界のブランド品の店等が軒を競っている。この部分については歩行者専用通りとしているようで、国内外の観光客が飲物や食物等を手にしてショッピングを楽しんでいる光景も見られる。さらに遊覧用のトロッコ型の自動

車が走っており、他の地域とは全く印象を異にしている。北京の銀座と呼ばれるこの通りには、王府井小吃街という串焼きや麺類等を商う店がひしめき合っている路地が隣接してある。狭い路地は、行き交う人々で自由な動きがままならない状態で、お祭りの出店を見えるような所である。近代的な通りに隣接して対照的な伝統的小規模店街を残し、多くの観光客を集めている点では、観光開発が成功しているといえる。

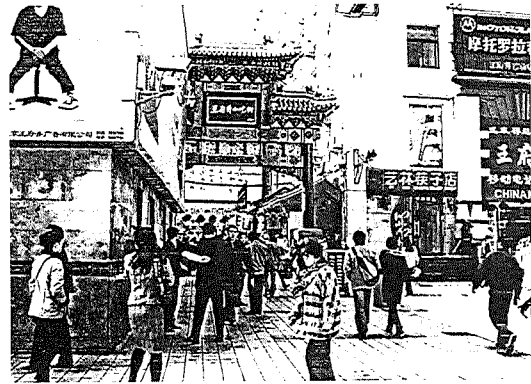


図1 王府井小吃街：北京第一の商店街に隣接した狭い路地に、串焼きや麺類その他の店がひしめき合う伝統的商店街

#### (2) 商業地域

ここでは北京動物園の南側に面して東西に走る西直門外大街通りと、それとほぼ並行する西苑街から西直門外南街通りに至る通りに囲まれた地域を商業地域としたが、明確な基準に基づくものではない。ちなみに、南北に走ってこれらの通りと西側で接する中関村南大街通りは、北側の中関村北大街通りに連なっており、学園地域の中を貫いている。この通りのには、パソコンを取り扱う小規模企業が入居しているビルが建ち並び、中国のシリコンバレーと呼ばれている。しかし、上述のように、これは学園地域の中に位置するという考えから、商業地域として区分することを避けた。

#### (3) 学園地域

ここは、北京市中心市内の北西部に位置し、北京大学とその少し北東部に清華大学という中国を代表すると言われる大学があり、さらにそのやや北東部に北京林業大学がある。この北京林業大学を北端とするおよそ東西6km、南北9kmの範囲に、殆どの大学が設けられている。その数は、概観した範囲で21校を数える。その他、専門学校と思われるものも多数あるが、学制が異なるために大学の範疇に入るものがあるとも考え

られる。まさに学園地域と言うにふさわしいところである。

表1 大学の所在数

	区域内	北側	東側	西側	南側	合計
大学数	21	4	4	2	4	35
%	60.00	11.43	11.43	5.71	11.43	

区域内：主要大学がある東西6km南北9kmの範囲

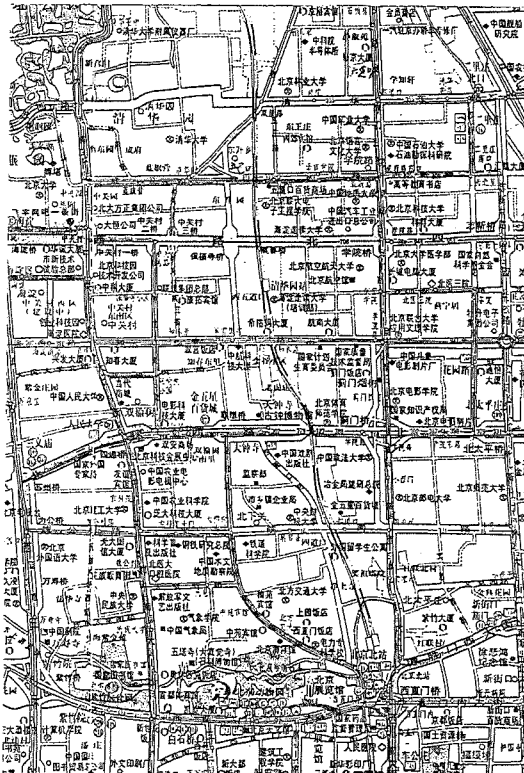


図3 学園地域

### 2・3 調査結果

大学周辺に小規模飲食店が多数存在するという理由もあるが、調査地域間に大きな開きが出た。ただ、一定の傾向を知ることは可能と判断する。ここでは、2003年の調査時に対象とした小規模飲食店が、2004年の時点で残っているか否かを明らかにする。

#### (1) 観光地域

この地域には、高級品を取り扱う老舗がかなりある。一方で、小規模飲食店は37店舗の内25店舗(67.57%)が残っているという結果が得られた。すなわち12店舗(32.48%)が1年余りの間に姿を消したことにな

る。

#### (2) 商業地域

商業地域は、上述のように学園地域に含めている部分があるために地域が狭くなっているが、20店舗中12店舗(60.00%)が残っている。

#### (3) 学園地域

この地域は、143店舗中91店舗(63.64%)もの小規模飲食店が姿を消したことになる。わが国の常識では、これほどの店舗が1年余りの間になくなるということは考えられない。もちろん、比較的狭い地域であるために都市整備の影響が大であったとも考えられる。

表2 調査対象店有無

	観光	商業	学園	合計
あり	25	12	52	89
%	65.79	60.00	36.62	44.50
なし	13	8	90	111
%	34.21	40.00	63.38	55.50
合計	38	20	142	200



図4 整備中の通り：都市整備中で、新旧の建物が混在しているところ

### 3. 調査結果の検討

#### 3・1 調査事項への影響要因

北京市は、次期オリンピックを控えて、環境整備に力を注いでいる。まず第一には各種競技場の建設、次に交通網の整備、外国人観光客に対応できる景観の整備、さらには人々の生活の根幹に関わる水道の整備等が進められている。交通網の整備としては、高速道路や幹線道路の建設が進められている。水源の確保は、毛沢東の発案である南水北調という世界的大水利事業の一環として行われている。景観の整備は、交通網の

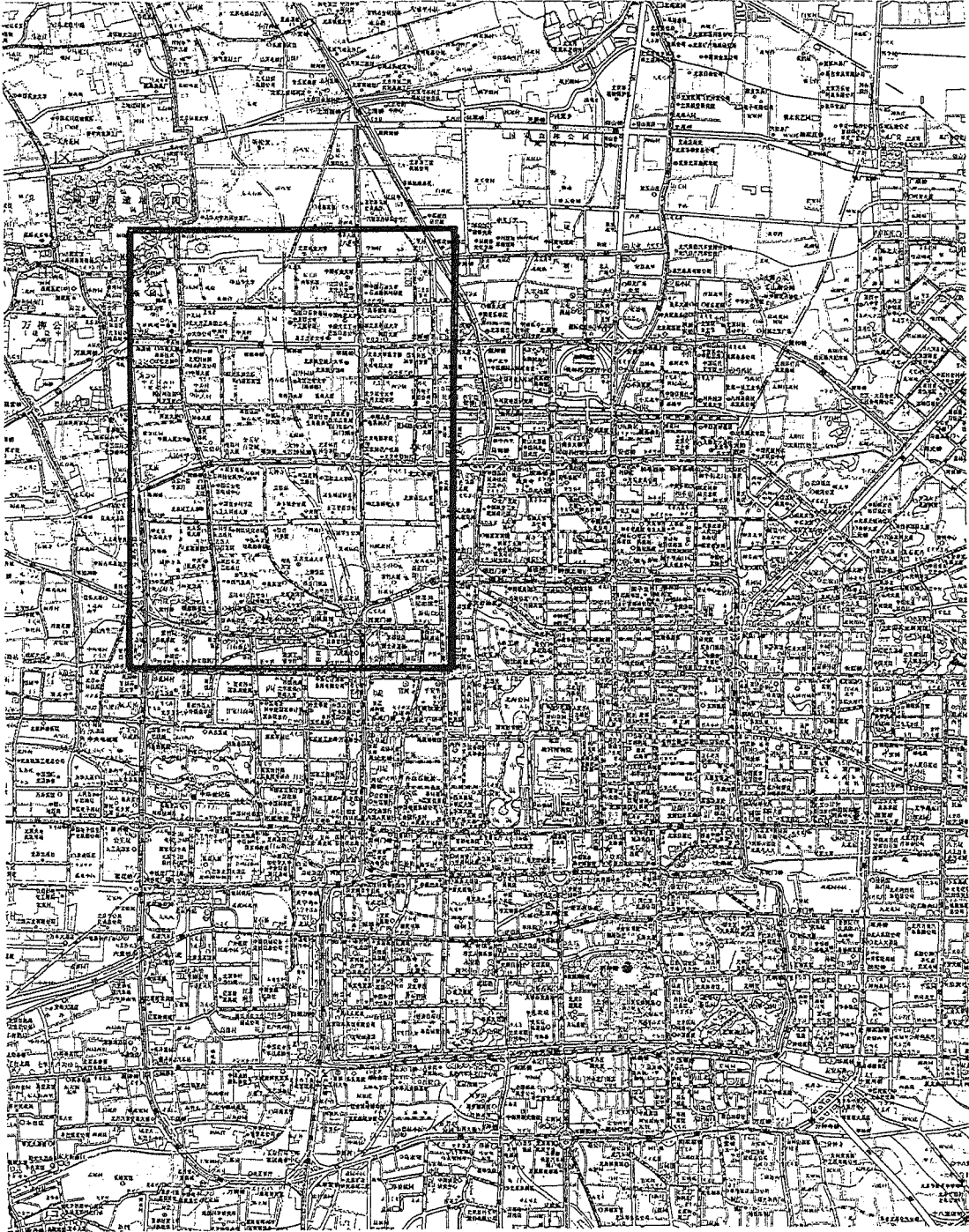


図2 北京市中心市内

整備との関連で行われている。観光地域や商業地域は、既に外国人観光客や事業の関係者に対応するために、

かなり進んでいる。しかし、学園地域では、比較的遅れていたように見受けられる。このような道路整備や

景観整備に伴う事業が、小規模飲食店の減少に大いに関わっていると思われる。

### 3・2 調査結果の検討

2003年の調査では、設立1年未満小規模飲食店が39.0%と非常に多いことが分かる（表3）。これがどのような原因によるものかは、未だ明らかでない。ただし、今回の調査によって、原因説明の手がかりは得ることができた。

表3 設立年と店舗数 2003年2月調べ

	2000	2001	2003	合計
店舗数	21	47	78	146
%	10.50	23.50	39.50	73.00

#### (1) 観光地域

ここは故宮を中心とし、中国を象徴する地域であり、早い時期から整備が行われたことが考えられる。そのため、観光開発のために整備されたものではないが、他の地域に比べると整っている。そのようなことによるのか、1年余り経過した時点で25店舗（67.57%）が残っている。ただし、雍和宮は、故宮の北側に位置し、安定門大街という大通りから入り込んだ所であり、若干整備が遅滞していたことが予測できる。この地域の中では最も多い12店舗中6店舗が無くなっている。

表4 観光地域の店舗数

	前門	雍和宮	王府井	その他	合計
あり	8	6	4	7	25
なし	2	6	1	4	13
合計	10	12	5	11	38

#### (2) 商業地域

商業地域で中心をなすのは、北京動物園の南側を東西方向へ走る西直門外大街通りである。ここは、パンダを飼育している動物園を控えた大通りであり、観光の目玉の一つともいえる。そのために、早期に整備が行われて来たものと推測できる。しかし、白石橋付近では、西苑街通りとに囲まれた部分が整備途中であり、4店舗（50.0%）が道路の拡幅工事で取り壊された

表5 商業地域の店舗数

	西直門	西苑街	白石橋	合計
あり	7	1	4	12
なし	3	1	4	8
合計	10	2	8	20

ものと見られる。

#### (3) 学園地域

この地域では、残っているのが52店舗（36.62%）である。この数字からも明らかなように、非常に変化が激しい地域である。ここは、故宮の北西部に位置し、観光客とは比較的關係が薄い地域ともいえる。清華大学周辺は、従来の道路の拡幅工事が行われる一方で、新たな道路の建設が進んでいる。それに伴って、周辺部の様子が一変している。すなわち道路の両側、又は片側に立ち並んでいた小規模店が、全て取り壊され道路に替わっているのである。ただし、花苑北路や志新路は、学園地域では比較的大きな通りであり、整備が進んでいたために、この1年あまりの間に大きな工事が行われず多くの店舗が残っているものと思われる。ただ、六道口の通りは大きな工事が行われていないため、殆ど建物は残っているにも関わらず調査対象店が全て無くなっている。これは、他の通りとは全く状況が異なり、1年余りの間に何らかの理由で全て代替わりしているということである。これは巷間聞かれることであるが、事業を始めても利益が上がらなければすぐにやめることが多いということ、また、事業が順調であれば権利を高く転売する、等のことがあるようである。この場合は、まさにこれらの理由によるものと推察できる。

表6 学園地域の店舗数

	六道口	双清路	学院路	花苑北	五道口	志新路	王庄路	その他	合計
あり	0	1	2	18	1	8	0	22	52
なし	10	11	17	6	10	0	8	28	90
合計	10	12	19	24	11	8	8	50	142

以上のように、観光地域および商業地域に比べて学園地域は、観光客の来訪が少ないことと広大な敷地および多数の建築物があり、さらにその中に設置・収納されているものは膨大な数に上る。このような施設を取り壊す又は移転するということは、極めて困難である。よって大学周辺の整備が遅滞したということが考えられる。もちろん、上述のように、外国人観光客があまり近づかない地域であるということも原因の一つにはなりうる。いずれにしても、調査時点での各地域間の差異を浮き彫り化することが出来た。

### 3・3 調査結果と問題点

この調査は、2003年に行った調査結果から理解できない点が生じたことから行ったものである。それは、

開業後の営業期間が短い小規模飲食店が多かったことである。今回の調査では、明らかにオリンピックに伴う都市整備・再開発のために、多くの商店街が姿を消している。土地が国有であるために、立ち退きを命じられれば、それに応じる他はない。しかも補償額が低いと報じられている。国際的事業であるオリンピックを成功させることを最優先事項としているために、若干の強制力を行使することは必要と思われる。ただ、今展開されている事業によって、各種小規模店が町並みごと姿を消しており、市民生活に対する影響が懸念される。それは次の2点である。(1)立ち退きの対象となった小規模店の対応。(2)顧客の日常生活への影響。

#### (1) 立ち退きの対象となった小規模店の対応

国民は、いずれの場合も国の制度に対応しながら活動しなければならない。しかし、立ち退きに関する準備期間、そのための補償等は、国によって差異があるようである。新聞報道や実際に話を聞いたところによれば、補償金が出ても新たに開業するほどはないとのことである。しかも営業期間が短いという傾向があるため、資本の蓄積が不十分である。このような場合には、労働者として働くか、または出身地へ戻る他はない。ただし、この事例では、北京市民でなければ好条件の仕事を得ることが困難といわれている。いずれにしても、立ち退きになった小規模事業者は、生活が保障されていないということになる。

#### (2) 顧客の日常生活への影響

多くの市民が最寄り品は買い置きをせず、必要に応じて購入するという生活を行っている。また外食の機会が多いお国柄である。これは、必ずしも家庭の食事よりも質の高いものを求めるというだけでなく、日常の食事でも外でとる習慣がある。このように周囲にある商店は、家庭の冷蔵庫であり、キッチンでもある。このような商店街が道路になり、再開発ビルになった後、それに替わるものが近隣に設けられている例を見ることができない。

以上のように、北京市中心市内における小規模飲食店は、道路整備および都市再開発によって急激に姿を消している。これに替わって比較的規模の大きな店舗が見られるようになっている所もある。このような道路整備や都市再開発は、観光都市や主要都市、さらには鉄道沿線で行われており、小規模零細事業者にとって事業環境の悪化となることは否めない。



図5 弁当を買う人々：再開発で飲食店が一掃され、路地に面したアパートの1階を利用した弁当店が繁盛

#### 4. おわりに

都市機能の変化や国民の生活様式の変化は、わが国においても日常生活圏の小規模店の淘汰が展開された。国家的事業が促進されるときには、国民の生活形態まで変化させることがある。北京市がオリンピック開催に向けて邁進している段階であり、伝統的な町並みや住宅街が再開発の波にさらされている。そのことが国民の日常生活に密着している小規模飲食店を減少させると共に、長年積み重ねられた伝統文化にも影響を与えかねない。そして、それに関わっている人々の生活についての配慮が必要と思われる。